

文語の苑のメルマガ

あかたにけいこ
赤谷慶子

文語の苑は平成十五年に發足し、平成二十七年に特定非営利活動法人として認可せられたりき。電網、所謂ウェブサイトは設立當初より設置せられたれど、メルマガは平成二十三年の六月に會員とのコミュニケーションの一端とせんがために發刊せらるるに至る。電網には會員及び各教室よりの投稿も多々あり。メルマガは基本原則として理事の執筆とする事となりたり。

帰國子女といふ表現すらなかりし一九五〇年より六〇年代、義務教育の殆どを海外にて受けし吾には、日本語を書くといふ事自體大儀なりて、メルマガの執筆等は拷問の如く辛き、頭の痛き作業なり。錚々たる長老理事たちの文章には遠く及ばず、つたなき初心者の文章を読み、自分の方がよほどましなる文語文を執筆するを得べしと思ふ會員一人でも多く出現せらるれば、吾の役割は達成せられたり。然るに恐悅至極なり。さ思ひつつ毎月脂汗を流しながら執筆してきたり。今回メルマガは百號を迎ふ。

舊假名遣ひは難儀なれども、文語文は英語のごとく名詞も動詞も鮮明にて、普通の日本文を書くよりも簡潔なりと吾は思ひき。假名遣ひは頻繁に過りたるも、以前よりは文語文を書くも早くなりてきたり。さはさりながら、初心者の域を出づるは至難の業なり。然りといへども理事の一人としてはこの「修行」のごときメルマガ執筆は繼續してゆく事必須なり。

文語を如何様にいたせば次世代に傳ふるを得んや。候文にてメールを打つ、といふ事業を廣める等理事會に於いては多様な案出現しては消え、未だに組織としては暗中模索にて良き手段見當たらず。そは惱ましきことなりにけり。

(令和元年十月二十八日受附)

